



# 病院NEWS

no. 352  
2013  
10/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。  
香川大学医学部附属病院  
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

## 第6回高校生手術体験セミナー

### 手術部



県下の高校生を対象にした『高校生手術体験セミナー』が、8月17日に開催されました。このセミナーは、手術室での実技体験を通して、医者という職業の魅力を伝える目的で毎年行われています。定員を超える応募の中から、30名の高校生が参加しました。横見瀬呼吸器・乳腺内分泌外科教授から開催のご挨拶を、堀井心臓血管外科教授からは、実際の手術ビデオを供覧しながら手術の魅力についてお話をいただきました。参加者は、食い入るようにビデオに見入って、とても印象深い時間を過ごしていたようです。また、医学科6年の北條君が、臨床実習や大学生活についての実体験を楽しく話してくれたので、緊張した面持ちの高校生達からも笑い声がもれ、リラックスした雰囲気の中で午後の実習に向かう事が出来ました。午後は、実際に手術室に入り、手洗い・気管挿管、内視鏡手術、顕微鏡・拡大鏡手術、縫合・結紮等の実技体験を行いました。これは医師が実際に使用するシミュレーション模型を用いた本格的な実技訓練です。終了後のアンケートでは、「普段体験できないことを体験し、在学生の話をきくことができ、医師になろうという意志が強くなった。」というような感想が多くありました。将来の香川の医療を担う人材確保の足掛かりとなることを期待したいと思います。最後になりましたが、本年も多大なるご協力を頂きました。各診療科医師、手術部看護師、事務スタッフの皆様、そして北條君に心より御礼申し上げます。

## 香川県医療情報ネットワークについて

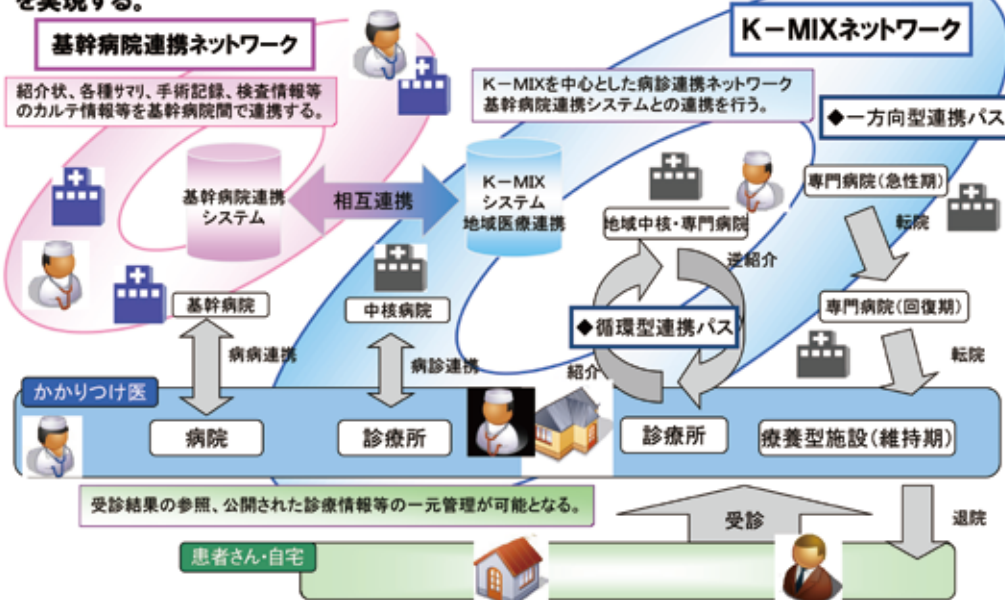
### 医療情報部 横井 英人

香川県では平成15年から「かがわ遠隔医療ネットワーク(略称:K-MIX)」の運用を行ってきました。紹介元と照会先の医療機関が、紹介状やレントゲン写真などをインターネットを介して送受信し、相互に見られる仕組みで、県内を中心に100以上の医療機関が加入しています。今回、「地域医療再生計画」という厚生労働省のプロジェクトの一環として、このシステムを更に機能強化し、県内の基幹病院の電子カルテを、連携している医療機関から参照できる「基幹病院連携ネットワーク」が稼働します。このネットワークがあると、例えば専門治療が必要な患者さんが診療所から大学病院に紹介された時、患者さんの同意を頂けた場合、大学病院の電子カルテが紹介元の診療所から参照することができます(※)。これにより、大学に紹介され、専門治療を受けている患者さんが、風邪などの一般的な病気で、元の診療所を受診されたときなどに、診療所では大学病院での治療内容を考慮しながら、風邪の治療を行うことができます。薬や治療には時に相互作用がありますので、それを考慮して治療方法を決めれば、患者さんにとって、より安心できる医療の提供ができるようになります。また検査を行う回数を減らすことができるかも知れません。また、このシステムへの参加に際して患者さん側の費用負担は特にありません。今年度のうちに多くの病院が接続されますが、大学病院はその中でも最も早くつながる予定です。どうぞご期待ください。

(※参照できる情報の範囲は、その病院の電子カルテの構造やセキュリティポリシーなどにより、病院毎に異なります)

## 香川県の地域医療再生計画(システム関連)の概要

香川県内の基幹病院間における各種診療情報の連携を実現するとともに、中核病院からかかりつけ病院や診療所に対する地域連携バスの提供や診療情報の公開などの病診連携を実現する。



香川大学医学部神経難病講座は、平成24年4月に香川県からの寄附により設立された新しい講座です。本講座が設立されるに至った経緯、構成メンバー、現在の活動状況、今後の展望について紹介させていただきます。

### 神経難病とは

昭和47年の厚生労働省による難病対策要綱において難病とは(1)原因不明、治療方針未確定であり、かつ、後遺症を残す恐れが少なくない疾病、(2)経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず介護等に著しく人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾病」と定義されています。簡単に言えばよくわからないが、徐々に悪くなっていき、治療もない(全くないわけではありませんが)病気ということになります。現在130疾患が対象となっており、その中でも神経系に関係のある疾患は3割近くあります。具体的には、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症、重症筋無力症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺などがあります。

### 香川県における神経内科診療の現状と本講座設立の経緯

現在、香川県の神経内科専門医は22名と全国46位で、神経内科医1人当たりの患者数は全国第4位(全国平均の約2倍)となっています。さらに、神経内科医の高齢化、偏在化が問題となっています。そこで、神経内科専門医の養成・確保・定着を図るために本講座が設置されました。

### 神経難病講座構成メンバー

構成メンバーは、准教授1人、助教1人、実験助手1人、事務員1人ですが、実際には消化器・神経内科の神経内科グループと共同で活動しています。

### 現在の活動状況

**診療:**診療面に関しては先ほども述べたとおり神経内科グループとして活動しています。外来診療は平成23年度までは水から金曜日におこなっていたのですが、月、火曜日と診療枠がふえ毎日行っています。入院に関して病床数はこれまでと変わらず10~15床程度ですが、来年度、新病棟が完成すれば20床を超える予定となっています。

**教育:**多くの学生に神経内科に対する興味を持ってもらうことを目標に活動しています。そのためには、実際に患者さんを担当するのが近道ということで、入院患者さんの協力を得て、学生一人に対し神経疾患の患者さんを一人受け持ってもらっています。細かな知識習得ではなく、病歴聴取による病因診断、神経学的所見による解剖学的診断を経て、確定診断に至る考え方を身に付けることを重視しています。初期研修医に対しては更に、検査結果の解釈、治療法の選択ができるように指導しています。また、後期研修医向けに県外の病因と提携した研修プログラムも作成しています。

**研究:**難病といっても全く何もわかっていないわけではありません。近年、遺伝学的及び病理学的観点から様々なことがわかってきています。神経疾患克服のため、遺伝子診断、新規遺伝子の同定、病理学的分析を中心に研究しています。

### 今後の展望

これから高齢化社会が更に進行し、ますます神経疾患の患者数が増加することが予測されます。一人でも多くの学生、研修医が神経内科を専門とし、香川県の神経内科医療が更に発展するように努めたいと考えています。



がんと言われたらどのような治療の選択肢があるのでしょうか。手術や抗がん剤と並んで「放射線治療」が挙げられます。がん(腫瘍)の種類や進行度によっては切除に匹敵する効果が期待され、「がんを切らずに治す」優れた特徴を持っています。

今回はこの「放射線治療」について考えてみましょう。

治療方法は、リニアックという装置を用いて体外からX線などの放射線を照射します。疾患によっては、病巣の近傍や内部から照射する小線源治療を加えます。対象部位は脳、頭頸部(喉頭や咽頭)、食道、肺、乳房、前立腺、子宮、血液疾患など多岐にわたります。原則として腫瘍が局所に留まる場合は根治目的の治療が可能です。既に進行し遠隔転移のある場合は、残念ながら根治の対象となりませんが、症状を軽減する緩和目的の治療は可能です。

そもそも、なぜ放射線でがんが死滅するのでしょうか?放射線が細胞のDNAを切断する能力を持つからです。放射線の量(線量)に応じて治療効果も高くなりますが、一方で正常組織の線量が高いと有害反応を起こします。つまり、治療が威力を発揮するには、腫瘍への正確な高線量照射に加えて、正常組織の線量をいかに最小限にとどめるかが大切です。しかし、頭頸部や骨盤部腫瘍の場合、近くに正常臓器が複雑に存在するため、従来型の治療技術ではその実現は困難でした。

この限界を解決できるのがIMRT(強度変調放射線治療)です。最先端の治療装置とコンピュータ技術を駆使して、多方向から強度を自在に変えた照射を行うことで、正常組織を避けつつ腫瘍形状に合わせて照射可能となるため、その結果、治療効果が高く同時に有害反応が低い画期的な治療として期待が高まっています。最新の治療についてお知りになりたい場合は、まずは、お近くの治療施設や放射線治療専門医にご相談下さい。香川大学では高精度治療システムの更新により、平成26年4月以降のIMRTの稼働を予定しています。

毎日新聞「四国健康ナビ」 H25.9.11掲載

## 第十二回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

副病院長・卒後臨床研修センター長 田宮 隆



去る8月24日(土)・25日(日)の2日間、第十二回卒後臨床研修指導医養成講習会を開催しました。齋藤 宣彦先生(前日本医学教育学会会長・聖マリアンナ医科大学名誉教授)を中心に講習内容を企画いただき、世話人の先生方(11名)のご指導のもと、本院20・協力型臨床研修病院20名の計40名の研修医指導担当医の皆様が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。特別講演では、田中 信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門官)、赤池 雅史先生(徳島大学病院キャリア形成支援センター長・教授)にご講演を賜り、本院卒後臨床研修を見つめ直し、今後の医師育成を改めて熟考する貴重な機会となりました。今回も、滞りなく終了できましたのは、関係各位の皆様のご協力のお陰と感謝しております。

## 第4回 四国地区治験推進連絡協議会の開催報告

治験管理センター長 横井 英人



平成25年8月24日に「第4回 四国地区治験推進連絡協議会」がサンポート高松の「かがわ国際会議場」で開催されました。この協議会は治験や臨床研究に携わっているスタッフらが議論・情報交換をする場です。折からの雨にも関わらず、四国以外の方も含め100名以上の参加者がありました。当院の千田病院長の開会挨拶に続き、治験の日常業務で起きている様々な問題についてグループワークを行い、活発な情報交換がされました。

昨今、臨床研究の実施に関する信頼性が大きく問われる事件が起きています。特別講演として、治験の計画や実施状況の確認、そして承認申請の審査などを行う、医薬品医療機器総合機構から、信頼性保証部の城谷真理先生をお招きし、患者さんを守りつつ新しい薬の使い方を模索する治験に関する心構えなどを講演して頂きました。また香川大学からは、治験データの信頼性向上のために、他大学に先駆けて開発中の電子カルテと治験システムの連携事例を発表しました。この会は今後も継続し、四国の臨床研究の活性化に貢献しようということとなりました。



## 臨床研究に関するご案内

### 医学部倫理委員会委員長 医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

掲示終了日	研究課題名	研究責任者(所属・氏名)
H26.03.31	死亡例におけるアルコールと外傷の調査研究	法医学 教授 木下 博之
H26.03.31	溺死の診断における蝶形骨洞内貯留液の性状に関する研究	法医学 教授 木下 博之
H26.03.31	酸素標識ガスPET検査時間短縮の試み	放射線部 診療放射線技師 前田 幸人
H26.12.31	非小細胞肺癌・高悪性度腺の予後に関する研究	呼吸器・乳腺内分泌外科 助教 奥田 昌也
H26.12.31	ステロイド早期減量プロトコルの移植後骨粗鬆症への有効性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 病院助教 西岡 聡
H26.12.31	正常高値アルブミン尿を有する高血圧合併腎移植ドナーの安全性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H26.12.31	腎移植後再発IgA腎症リスク因子に関する検討	循環器・腎臓・脳卒中内科 助教 祖父江 理
H26.12.31	ガドキセト酸ナトリウム肝造影ダイナミックMRI～動脈相画像におけるtruncation artifact出現と検査条件との相関性に関する後ろ向き研究～	放射線医学講座 教授 西山 佳宏
H27.03.31	多施設間の統合退院サマリーデータベースの構築	医療情報部 教授 横井 英人
H27.03.31	院内がん登録全国データの相談支援センターにおける活用に関する研究	腫瘍センター センター長 合田 文則
H28.03.31	各種ヘモグロビン誘導体測定値の法医診断学的意義に関する研究	法医学 教授 木下 博之
H29.03.31	がん治療における口腔合併症の観察研究	歯・顎・口腔外科 助教 大林 由美子
H30.03.31	造血幹細胞移植患者の移植前後における身体機能と移植合併症、栄養状態との関係	リハビリテーション部 理学療法士 田仲 勝一
H30.03.31	低用量rasburicase(RSB)による高リスク腫瘍崩壊症候群(TLS)の適切なコントロール方法の確立	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科 教授 松永 卓也
H30.12.31	血管新生阻害剤投与下における肺癌組織中fibrocyteの動態に関する研究	呼吸器・乳腺内分泌外科 講師 後藤 正司

## イベントカレンダー H25.10～12月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
10/17～20	9:00～	サンポートホール高松	第18回国際遠隔医療学会 (18th ISfTeH International Conference - Japan)	医療情報部	(087)887-4967
10/18,19	9:00～	かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第17回日本遠隔医療学会学術大会 (JATTA2013in高松)	医療情報部	(087)887-4967
11/9,10	13:00～	湯元ことひら温泉琴参閣	こんぴらセミナー「若手麻酔科医のためのハンズオンセミナー」	麻酔・ペインクリニック科	(087)891-2223
11/12	14:00～16:00	病院地下1階 カンファレンスルーム	肝臓病教室	地域連携室	(087)898-2417
11/15	14:00～16:00	病院地下1階 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん診療相談支援室	(087)891-2473
11/16	13:30～15:30	臨床講義棟1F	平成25年度香川県周産期医療従事者研修会	周産期学婦人科学	(087)891-2174
11/23	12:55～19:20	かがわ国際会議場	第1回新胎児学研究会	周産期学婦人科学	(087)891-2174
12/1	8:40～17:00	かがわ国際会議場 サンポートホール高松	第109回日本内科学会 四国地方会	消化器・神経内科	(087)891-2156
12/7		香川県医師会館	第93回日本小児科学会香川地方会	小児科学講座	(087)891-2171
12/8	12:00～	香川県立保健医療大学	第6回香川県小児保健協会研究会	小児科学講座	(087)891-2171

平成26年度 **看護職員募集**

受付期間 平成25年7月1日(月)～平成26年1月14日(火)

**看護師・助産師 85名募集**

試験日	応募締切日
11月29日(金)	11月19日(火)
平成26年1月24日(金)	平成26年1月14日(火)

お問い合わせ先 087-891-2320(看護管理室)

#### 編集委員会 (50音順)

石井(看護), 岩瀬(病棟), 岡田(総務), 鬼村(医事), 梶川(検査), 加藤(放射線), 唐木(外来), 白神(麻酔), 芳地(薬剤), 松本(看護), 安友(管理), 横井(情報), [委員長 千田病院長]